

金木犀 (きんぼし)

止正広

・ 西街に立ち上り 足ふみは改
君の音が聞こえるまで
はら 金木犀の香は君の唄

暑かった夏の思い出を
ミッドテールにとかしてほろろに
秋の中にあけていました

やわらかい君のほほに
やさしい風が かさみよるとき
はじめの秋の笑顔が みえてきます

甘い香につつまれて
秋の空に 精一杯背のむらじ
きっと明日は二人で歩こうね